

冷たい日でしたが
無風といってよい
ほど穏やかで、煙が
狼煙のように立ち
上り水面にビルが



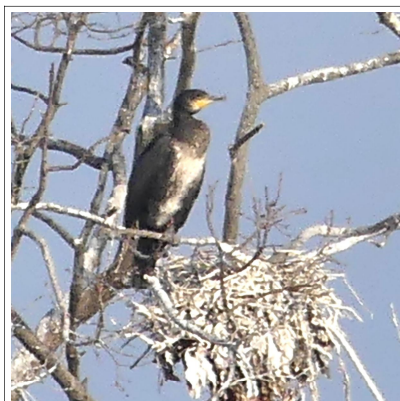
くつき映しだされていました。今年は冬鳥の姿が少ないと感じます。1月にツグミが見られないのは寂しいと思っていたら高い木の梢にお目当ての一羽が姿を現しました。



ツグミ

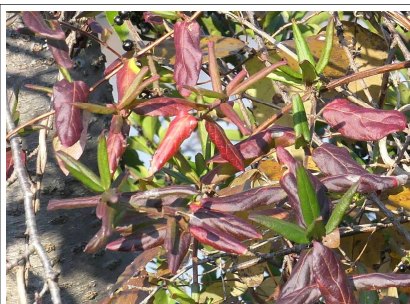
冬鳥で、コナラの木の上、ビルの3階くらいの高さの枝に止まっていて、近づこうとしたら飛んで行ってしまいました。まだ移動してきたばかりのようです。

この辺で見られるツグミの仲間にはシロハラとアカハラがいます。今日はシロハラには会えませんでした。アカハラがフェンスの際にいました。残念ながら気付かれてすぐに逃げられてしまったので下の写真は昨年撮ったものです。ツグミと違い地面近くで見ることが多い野鳥です。



カワウの幼鳥

巣立って間もない若いカワウです。遠くから見てもすぐに分かるほど胸の白さが際立ちます。



スイカズラ

5月～6月に甘い香りのする白い花が咲くと次第に黄色に変化するので別名を金銀花。また、冬にも葉が散らずに耐えていることから忍冬(にんどう)ともいいます。

イスノキエダチャイロ
オオタマフシ

百年の森の地域にマンサク科のイスノキが何本もあります。その枝に丸い虫こぶがいくつもついていました。モンゼンイスアブラムシが枝に寄生して作ったもので、穴が開いていました。翅の生えた虫が穴から這い出して、アラカシに飛んでいきその葉裏に産卵します。この虫こぶには5ミリの穴が開いていますが虫こぶは固い木質です。誰が開けたのか不思議ですが、穴のあった辺りが乾燥して収縮することで蓋が開くということです。くわしいことは不明です。



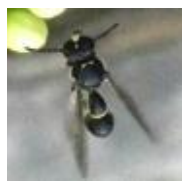
クリオオアブラムシ卵

2ミリの楕円形の卵が密集していました。卵のまま越冬し、春には下のようなアブラムシ（体長4ミ）が生まれます。



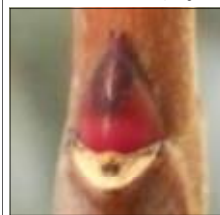
ムモントックリバチの育房

とっくり形の口で、雌はシャクガ幼虫を狩り餌（麻酔され動けなくしている）を運び込んでから産卵し口を閉じます。



イロハモミジの冬芽

対生の植物で、頂芽が二つ重なっています。仮頂芽の下に毛が生えています。冬芽の下には左



のような顔のように見える葉痕があります。



ウロコアシナガグモ

体長は5ミリの小型のアシナガグモで、腹部背面に鱗のような模様があります。さまざまな角度の円網を張りますが、中には直接捕獲するものもいるそうです。



キセルガイの仲間

サクラの幹の枝の間に溜まったもののの中に潜っていました。カタツムリの仲間で、形が煙管(キセル)に似ているのでこの名前と呼ばれています。この仲間の大部分は左巻きだそうです。



タラノキの冬芽

棘の上に出ている三角帽子のようなものが冬芽です。

棘の上にある点の列は、タラノキの葉が落ちた痕(葉痕)です。点は葉に通っている水や養分が流れる管の痕で、葉を落とす前に、閉じられます。

植物 シキザクラ、サザンカ、種(ニセアカシア、ノイバラ、センダングサ、チヂミザサ、タカサゴユリ、テイカカズラ等)、実(クロガネモチ、マンリョウ)、冬芽(イロハモミジ、イスノキ、アカマツ、タラノキ、サワフタギ等)、**昆虫** 蛾の幼虫(チャミノガ)、ムネアカハラビロカマキリ卵のう、カメムシ類(ツヤアオカメムシ、クロオオアブラムシ卵、モンゼイスアブラムシ、チュウゴクアミガサハゴロモ産卵痕、イセリアカイガラムシ)、蟬(ツクツクボウシ羽化殻)、クロゴキブリ幼虫、蜂(ムモントックリバチ育房、アシナガバチの一種育房)、蠅(ハナバエの一種)、優曇華の花・クサカゲロウ孵化殻、クサカゲロウ幼虫(虫こぶの中)、**蜘蛛** 痩せたジョロウグモと卵のう、ウロコアシナガグモ、アシナガグモ幼体、ハリゲコモリグモ、**鳥** ツグミ、ジョウビタキ雄と雌、アカハラ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ声、シジュウカラ、ハクセキレイ、カンムリカイツブリ大群、オオバン、カウウと幼鳥、ハジロカイツブリ、ホシハジロ、カルガモ、**その他** 虫こぶ(イスノキエダチャイロオオタマフシ、イスノキハタマフシ)、陸貝(キセルガイの一種)、茸(ツガサルノコシカケ、ナラタケ?等)

次回:2月13日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円